

指示を受けるときの基本姿勢① 自分の仕事に対して責任感をもつ

正しく指示を理解する Aコースの学習目標

情報量が少ない曖昧な指示でも、
上司と認識をすり合わせながら
正しく指示を理解する

指示を受ける基本姿勢

指示を正しく受けるための2つの基本姿勢

- 1 : 上司の立場に立つ
- 2 : 組織目線に立つ

上司の立場に立つ

上司の立場に立つためにはまず、上司が部下に指示を出す際の、2つの背景を知ることが重要。

① 指示を出す時間を短縮したい

細かく指示を出すと、膨大な時間がかかるため、できるだけ詳細情報は省いて指示を出したい。

その為、曖昧な指示に着地する場合が多い。

② 部下に高い理解力を求めている

経験を積んできていたり、年次の高い上司ほど仕事の進め方の理解が深いので、自分と同じ理解力を部下に求めた結果、曖昧な指示になってしまう。

これらの背景の元、上司は曖昧な指示を出す。
⇒慣れていない部下は意図を汲み取ることができず、コミュニケーションにズレが生じて、指示を受け取る際にミスが起きる。

上司の立場を理解し、曖昧な指示に対して、自分から認識をすり合わせていくことが重要

組織目線に立つ

組織目線とは、

- ①自分の役割に責任を持つこと
- ②会社の目的と自分の仕事をリンクさせること

組織目線に立って指示を受けることで、上司と同じ目線で、指示を理解することができる。

✕ 上司から仕事を頼まれたから
とりあえずやる

○ 自分の仕事を点でとらえるのではなく
組織全体の線の流れでとらえる

自分の仕事に責任を持つこと

「自分が出す成果は自分のためだけではなく、会社にとって非常に重要である」と組織目線で考えること。

「上司に認めてもらうため」ではなく、「組織への貢献」を目的に、ベストパフォーマンスを尽くす意識が重要。

次回の学習テーマ：指示を受けるときの基本姿勢②
自分の頭で考えようとする